

# ふたりのコラム

June 30, 2020

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子  
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

## 《3・4・5 歳児》

気温の変化が激しいですね。6月は、室内の密をなるべく避けるため、可能な日は園庭に場所を設定し、ものつくりをしたり、ごっこ遊びをしたりしました。風があり、湿度も少ない日は、木陰など、とても気持ち良く生活できました。外での活動は、自然物を取り入れることも増え、遊びに広がりを持たせます。後半、気温が高い日や雨の日も増え、室内で過ごす時間も多くなってきましたが、なるべく保育室の密も防げるよう、遊びのコーナーのレイアウトを工夫しながら、保育を行っています。また、職員の健康管理を徹底するとともに職員同士の密もさけるような配慮も行っています。



先日、園長ホットラインに、Aさん（保護者）から、屋外でのごっこ遊びの準備と園での配慮についての感謝の言葉と共に、ご自身も、免疫力を高められるような配慮もしていきたいという内容のお手紙をいただきました。また、Bさん（保護者が勤務されている薬局の責任者の方）からコロナ禍で大変な中、保育者のみなさんが保育を行ってくださっているおかげで、薬局のスタッフも安心して仕事ができ、ありがたく思っているとご連絡いただき、園に消毒液を寄付してくださいました。何れもとてもありがたいお話です。



緊張や不安をもち生活する中で、お互いが支え合い、感謝し合うことは“気持ちを支え合う”ということなのだなぁと改めて感じました。

## 免疫力をあげて健康な生活を送ろう！！

Aさんのお手紙の中にもありました、「免疫力を高める配慮」…とはとても大切なことですね。いろいろな病気に負けないために、睡眠、運動、食事に気をつけ、休息をとり、ストレスをためず規則正しい生活をしていくことが大切です。



今回は、この中の“食”に視点をあててみたいと思います。体に良い食品類「ま・ご・わ・や・さ・し・い」は、ご存知の方も多いと思います。この中の「ま」の1つ「大豆」と「麴」でできた『発酵食品』が味噌です。

今、園で提供している昼食の みそ汁には、手づくり味噌が使われています。

この味噌は、ファーム（地域の方）と保護者有志、職員が育て、収穫した大豆を使い、よつ葉工房（手作り味噌づくり工房）の指導を受けながら、仕込みました（原材料：大豆・塩・米麴）。1年程寝かせ、発酵が進みおいしい味噌に仕上がりました。

味噌、醤油、酒などは、この麹菌の発酵によりつくられた発酵食品です。発酵は、元の食材にはなかった成分も生み出してくれます。麹菌（コウジカビ）の歴史は、紀元前までさかのぼるとも言われています。この微生物の命のバトンを大切に育ててきた日本で、国菌として2006年に認定されたそうです。私たちの生活に長い間根付いてきた菌を大切にしていきたいものです。

さて、発酵食品とは、他にも、納豆、ヨーグルト、チーズ、キムチ・・・いろいろあります。発酵食品とはその人に合うものを見つけることがよいとも言われています。みなさんも“菌活”してみませんか。

## 『2020 子ども・子育て国際フォーラム』は、延期します

新型コロナウイルスの影響で、今年の夏予定していましたが子ども・子育て国際フォーラムは、2021年10月24日（日）・25日（月）に延期します。初めてのフォーラムの話聞く方もいらっしゃると思いますので、なぜ、佐野市で子ども・子育て国際フォーラムが行われることになったのか・・・お伝えします。



経緯 佐野市の取組が2012年、OECD発刊のStarting StrongIIIに掲載されてから、実態の伴ったさらなる「質」向上を目指す試みが続けられ、その後、幼稚園、保育園、認定こども園、小規模保育園が一体となった公開保育研究会（佐野市 Strong Start 研究会 略称SS研）が発足されました。このSS研では公開保育と併せて、「まちづくりの真ん中に、子ども・子育てを！」をコンセプトに、会の発足前から開催されていた市民フォーラムを引き継ぎ、その延長線上に佐野市「子ども・子育て国際フォーラム2020」を位置づけ、準備を進めています。

「子ども・子育て国際フォーラム2020」の意義

- ①国やCedep等中央の取組と連動し、地方発信で子ども・子育て、保育の「質」向上に寄与する
- ②結果としてまち全体での保育の「質」向上をさらに目指す（小学校教育との接続含む）
- ③行政と現場との協働をさらに推進する
- ④働き方改革を含めた子育て・仕事の両立支援、雇用のあり方をめぐる、地域企業との協働を模索する
- ⑤フォーラム開催をめぐり地域経済を含めた地方創生・地域活性化に貢献する
- ⑥一度きりのイベントではなく、このフォーラムが契機となり、継続的な取組が可能になる

この取組は、2030年を見据えた佐野市のまちづくりそのものです。子ども・子育てを中心に、これを生涯学習の出発点と位置付け、さらに運営には高校生や大学生が参画し、行政、企業、市民が一体となった取組みは、まさに持続可能なまちづくりとなります。佐野で働き、家族を作って暮らし、ときに結婚などで遠くのまちで暮らすことになっても佐野に納税するような、次世代の人財を育成したいものです。

このような経緯と考えから、フォーラムが企画されています。この状況下、いろいろな制約も出てくるかと思いますが、当園はもとより、佐野市にとって意義あるものになっていくと固く信じています。

（文責：中田）



## 《0・1・2 歳児》

湿度が高くムシムシした日が続いていますね。水分補給をしっかりと行い熱中症に気をつけていきましょう。

2年程前にメイプルキッズの砂場の日よけになるよう、ぶどうの苗を植えました。幹も昨年に比べ太くなり、葉も生い茂ってすくすくと大きくなってきています。



つい先日、2歳の子が砂場で遊んでいるときにふと上を見上げ「あ、ぶどうだ」とうれしそうに指差していました。私が「本当だ！ぶどうだね」と声をかけると「食べられるのかな？」と興味津々な様子。その後、「あ、こっちにも！いっぱいだ！」ときょろきょろ見回していました。そして、近くにあったぶどうの型抜きを見つけると、「あ、これもぶどうだ」とまたうれしそうに砂で型抜きをして遊び始めました。昨年、一昨年とぶどうが実りはじめでは、そろそろというところでカラスに奪われるという苦い経験をしました。今年こそは、ぶどうが色づいていく様子を子どもたちと感しながら、あまーいぶどうを食べられるといいな！と願っています。

もうひとつ子どもの成長を感じられたエピソードをお伝えしたいと思います。ヤギを園庭に繋いでいた時に、4歳の男の子A君B君2人が駆け回っていました。少しするとA君が泣いている傍でB君が困っていました。私が近寄り「どうしたの？」と声をかけると、A君が「僕が待ってって言ったのに、B君が捕まえた」と泣きながら答えました。私がB君のほうを見ると困った感じで、「だって僕鬼だから捕まえたただけだもん・・・」とぼそり。私が「A君は待ってって言ったのに捕まっちゃったのが嫌だったんだね？」「B君は、鬼だから捕まえたのに、A君が泣いちゃったから困ってるんだね？」と聞くと二人とも無言でうなづきました。そこへ、年中組の女子2人が

「どうしたの？」と声をかけてきました。私が事情を説明すると「捕まりそうになって、待ってって言ったらいつまでたっても鬼が捕まえられなくてつまらないよ」と言いました。私は内心、ナイスフォローと思いながら「そうだね～確かに、鬼が捕まえられないとつまらないね」と言うと、A君は少し考えていたようでした。B君も困り顔のままでしたが、少しすると、「行こう！」と2人でまた走り出して鬼ごっこの続きが始まっていました。この2人、赤ちゃんのときからメイプルキッズに通っていた子たちだったので、その成長ぶりを嬉しく感じました。4歳のこの時期では、鬼ごっこで捕まるのが嫌で泣いてしまったり、鬼も捕まえられないと飽きて途中で止めてしまったり・・・よくある光景です。裏面へ続く

まさひこ先生が、カラス除けのネットをつけてくれたよ！！子どもたちも興味津々です☆彡





まだまだ、自分が中心で相手の思いを受け入れるのは少し難しい・・・というか発達途中。

今回の2人も、あのまま遊びが終わってしまうのかな？と思っていたのですが、再び遊びだしていました。

少しずつ相手のことを考えることができるようになってきたとともに、大好きな友達と遊ぶことの楽しさも感じているのでしょう。

友達と遊ぶ楽しさを知っているから、ちょっとくらいいざこざがあってもまた仲直りして遊びだせるのです。

こうした毎日の遊びを通したやりとりから、子どもたちは人との関わりを学んでいくのですね。

この日の帰り B 君のママに会ったときに、エピソードを話したところ、「家ではお姉ちゃんにすぐに手を挙げたり怒ったりするのに、ちゃんと仲直りして遊び出していたのですね」と喜んでいました。

こんな風に保護者の方と子どもの成長を喜び合えるのが何よりうれしいです。



## メイプルエリア工事完了間近です！！

4月よりメイプルエリア環境改善工事に伴い、保育室、送迎の変更等ご理解ご協力いただき、ありがとうございました。

おかげさまで完了間近となりました。7月はじめには、もとの保育室での保育が可能になる予定です。該当学年の方には追ってお手紙で詳細をお知らせします。

今回の工事では、おもに2歳児クラス付近のテラスとトイレの環境改善を行いました。寒暖や雨にも対応でき、尚且つ光が入るよう大きなサッシがつき2歳昇降口入口が広くなり、空調設備も整えました。また、1～2歳の子どもたちはトイレトレーニングを始めることも多い時期です。子どもたちが安心してトイレトレーニングができるよう段差をなくすとともに、子ども自身が着脱できるような広いスペースを作りました。子ども達にとってより安心、安全な空間ができ、私達保育者も今後の保育が楽しみです。



(文責：新井)